

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念があり、玄関、各事務所、ユニットの目に入りやすい箇所に貼っている。	○	今後も同対応を行う。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念1・2を事務所・ユニットそれぞれ目に入る箇所に貼り付けている。行事を始めとして地域の方々と活動をともにし、基本理念に謳う地域密着型施設になってきている。	○	基本理念にある社会参加については不十分である。今後は社会参加への取り組みも行っていく。どのような場があるか、区役所にも足を運び検討する。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	当園の自慢は、なんといっても現在に今も残る自然に囲まれたGHという事であり、家族にはそこだけ切り取られたように恵まれた自然の中で生活する事の良さを伝えている。	○	良さを伝える事に関し、今後は言葉ではなく形や物として伝えたい。さくら園といえば自然に囲まれ、豊富な行事で四季を送るといった連想イメージを家族や地域に根付かせたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤・退勤・散歩の際には挨拶を励行し実践している。挨拶を行うことで入居者の顔を覚えて頂き又、花や農作物などを園に届けて頂くような関係にある他、桜の季節には花見の誘いも受けるといった関係が築けている。	○	挨拶の励行は継続し、現在ある関係を更に深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の伝統的な祭りに参加している。園の駐車場を御輿の休憩、待機場として又、模擬店の設置場として提供する事ができている。	○	左記を継続する事と、園の行事の招待を継続する事で地域との関係を更に深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護相談などは行っていないが、行事などへの参加を町内にお知らせする事で招待し、実際に参加をして頂く事ができている。	○	現在のところ、行事参加の招待での地域貢献が主である。他にどのような貢献方法があるかを話し合い、検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の指摘事項については評価後すぐに書面にまとめ各ユニットに配布している。1年をかけて少しずつゆっくと見直しをかけてきた。改善した部分も多いが、残っていたり、この1年で新たな部分も見えてきた。	○	指摘事項を各ユニットに配布する事でユニット単位から施設単位までもの見直しができた。新たに見えた部分も今後の取り組みで改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催の準備中。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区には認定申請や区分変更、生活保護の相談他、電話や郵送で済む事や区のお知らせや介護関係の冊子を取りに実際に足を運び、担当の方とも直接会う事を心掛けている。生活保護の担当者は様子を見に来園するので、行き来する機会は十分にあるといえる。	○	左記の対応を今後も継続していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護についての研修に参加、配布された資料はファイリングし各ユニットに渡し閲覧を促がしている。自己学習を促がし職員それぞれの意識を伸ばしたいので、良い書面や文献を探し、配布している。	○	介護職員には研修等、赴く事での学習よりも書面や文献での自己学習を中心に取り組んでもらいたい。管理者は取り組みの手助けができれば良い。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は権利擁護についての研修に参加、配布された資料はファイリングし各ユニットに渡し閲覧を促がしている。自己学習を促がし職員それぞれの意識を伸ばしたいので、良い書面や文献を探し、配布している。	○	介護職員には研修等、赴く事での学習よりも書面や文献での自己学習を中心に取り組んでもらいたい。管理者は取り組みの手助けができれば良い。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にはご家族や本人が十分に理解をして頂けるように細かな説明を心掛けている。入居まではこまめに電話連絡を行ったり、契約の際には補足の文章を作成する等、相手に伝える、理解して頂く事への配慮をしている。	○	今後も左記の対応を継続していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは1対1で話す機会を設ける事で不満やニーズを聞きだす事している。入居者も自身ではユニット職員に言えないところがあり、管理者は話を聞く機会を設けて聞き出した内容を職員へ伝えている。	○	居室担当職員を中心に少しずつ一対一で話す機会をそれぞれのユニットで設けて実践していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話での連絡や毎月のお便り(写真)で入居者の表情を届けている。写真のお便りでは行事やイベント、日常の表情を毎月送っている。面会が滞っている家族には電話で伝えている。新規入居者については始めのうちはこまめな電話連絡をしている。金銭に関しては残高を書面にして送っている。	○	今後も左記の対応を継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の機関や園の苦情窓口については契約書に明記している。開所時より外出機会の少なさに指摘を受けてきた。改善する事によって家族、入居者より生の声で反応がある。小規模な近場の外出機会を増やし、車を使う事で中距離の移動も行い、桜の時期には近場の桜を複数回、見にまわった。	○	入居時には些細な事も気がついた事があれば遠慮なく伝えて欲しいとお話するがなかなか家族から受けることはない。アンケート形式の匿名で家族の意見を募りたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	それぞれのユニットでの良いところはそれぞれに伝え、盛り込んでいくかを検討させている。時に直接意見を聴取したり募っている。	○	定期的なユニット会議、リーダー会議で意見聴取し話し合いの場を設けるようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	4人の職員を配置する日が月の1/4ほどあり。急な欠勤にも調整が可能なシフトになっている。またユニットリーダーにはフリーの出勤日を設けさせている。	○	左記を継続していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職の事実を入居者に伝える事は職員自身に任せ、特に規制はしていない。伝えることを良しとしない考えもあるが、人との別れを惜しむという感情を抱かせることについて必ずしもマイナスではないと考えている。	○	左記にあるように職員それぞれに任せ、今後も特に規制等は設けない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>受講資格を得たものから認知症高齢者実践者研修へ行かせている。</p>	<p>○</p> <p>具体的な働きかけの案はないのだが、職員の自己学習への向上心をアップするような事を検討していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理・運営上必要と思われる研修や講習については出席を打診され、勉強の機会を与えられる。GH連絡会の参加もしている。</p>	<p>○</p> <p>衛生管理や虐待、権利擁護についてやGHの管理者の集まりに出席をした。今後も各種研修、GHの集まりに参加をしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩設備がない当園においては職員に狭い思いをさせてきたが、休憩室を増設する事で緩和を図った。</p>	<p>○</p> <p>限られた時間に手足を伸ばせる休憩をと考え、6畳ある休憩室を増築した。半日の疲れを癒し、残り半日の業務への英気を養って欲しいという管理側からの気持ちを込めている、有効に利用し休憩のみならず会議の場にもしようしていく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>就業期間に関係なく居室担当を設け、責任を持ってその方をお世話させて頂く。介護の業務における気持ちなどをより重く実感し感じてもらえる意図をこめている。</p>	<p>○</p> <p>左記を継続していく。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期面接の際には印象も大事だが、話を聞く態勢を示すよう心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>入居間もない間は特に本人を訪れ、目線を合わせる、しゃがみこむのではなく隣に椅子を用い座ることで話を聞く態勢を示すようにしている。初回面接時より顔を合わせているので印象は残すことができている。今後もこの対応は継続していく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者の初期印象が園の印象になる事を念頭に電話や見学の対応をしている。家族には入居の理由を明確に尋ねる事で自宅介護ができないというその背景を知る。介護支援専門員は家族は何を求めているのだろうと考え対応させている。</p>	<p>○</p> <p>申請をされる家族の中には介護の知識を勉強されたり良く調べている方もいるが、ほとんどは無情報のまま頼ってこられる為、一からの説明をしている。間違った説明をしないよう市からの連絡やホームページの更新などはこまめに確認しチェックし、自己学習としている。今後も継続していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から直接の場合は簡単に情報を聞き、入居に至った理由を伺う。始めから入居目的での問い合わせの他に、時に介護とは？GHとは？といった相談の電話が来る場合がある。中には担当の介護支援専門員がいない方もいる為、手続きの方法や在宅サービスの種類や契約方法等を説明させてもらった事もあった。	○	相談を受ける側は日々、介護の情勢に目を向け情報収集し自己学習を怠らない体制継続したい。知識不足では質問した側を不安にしてしまう。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本入居前に体験入居を行う事で職員は情報収集を、申込者には園の雰囲気の中での生活をしてもらっている。その際に生じた解決点等を同解決していくかを家族や居宅担当の介護支援専門員と相談、時に集まりの場を設けた。	○	現在は満床の状態だが、今後も同対応でいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の中にはやってもらってばかりで悪いと、恩返しという事で食事の後片付けを手伝ってくれる方もいる。又、誕生日は同月でも別々に会を行う事で等しく喜びを感じてもらっている。季節行事は共に楽しんでいる。	○	左記を継続し介護においての職員はさせてもらう、入居者はしてもらうの概念をとっばらっていききたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	やむを得ない理由がない限り通院付き添いは家族へ依頼している。又、季節の行事には家族を招待し、楽しい時間を共有している。	○	左記を今後も継続していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	様々な生活背景があるが入居後に疎遠になる事がないように通院の付き添いや、面会が長期滞っている場合の連絡等、家族と入居者との距離をうまく維持できるよう対応している。	○	左記内容では不十分であり、今後の対応としてはより詳しく文章での様子報告や面会に来てもらえるように対応していきたい。他のGHでの取り組み方も参考にしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便物の投函や電話の希望があればいつでも使用してもらって、友人関係を維持する援助をしている。かかりつけの病院も希望があれば入居後も継続してかかっている。	○	左記を今後も継続する事で友人関係が途切れないように援助していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	9人の男女が共同生活を営むうえで生じる摩擦やトラブルについても職員が入居者の間にうまく入り込めず、未然に防止できる時と発生後に収める時とがある。	○	職員が入居者の人間関係や性格をもっと把握する必要があるが、必ずしも離す、遠ざけるではなくトラブルを未然に防ぐ意味での情報の一つとして(人間関係)を考えていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	生活保護受給の入居者で入院退居になった方がいたが、その後も電話や他の方の訪問の際に様子を伺ったり、私物の整理、粗大ゴミの処分手続き等を行った。	○	今後の退居者の方についてはその後の関わり方を家族とともに検討する。希望があれば相談など可能な範囲で関係を継続していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望については日々の会話から聞き出し、偏りが出ないように可能な限り叶えていこうと考えている。個人的な買物や外出機会の増加等徐々に結果が出ている。解決不可能な無理な希望は現在はない。	○	買物では、定期的な外出を企画し頻度を平均化し偏りが出ないように心掛ける。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時書類の中にある経歴表には多くの情報を書き込んでもらえるように家族には依頼している。今後の園生活において非常に重要な資料となり、コミュニケーションの際には話題を選択したりするのに用いたりしている。	○	事前面接や家族から得た情報以外に、入居後の関わりや会話を通じて新たな情報の収集に努める。職員自身で把握しきれていない部分に関しては、各自でファイルを見たりして情報を収集していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	項目34をふまえ、入居者それぞれの行動パターンや生活スタイルを日々の勤務、関わりの中から情報を収集している。有する力においては個々に職員と共同作業(掃除や作製物)を行う事で可能動作を見極め、一人一人の把握に努めている。	○	左記通りの方法を継続し、その中で新しい発見や出来事に関しては記録に留めたい。皆で共有していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	希望やニーズに関しては本人に聴取したり、日常の会話の中からの発見に努めている。計画作成担当者はそれに職員からの意見も取り入れて介護計画を作成している。	○	担当者会議を家族や本人、医療機関、可能な限りの関係者に参加を促がし、開催したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議の際に変化や状態について話し合いの場を持っている。入院を要するような大きな変化については、家族や医療機関とも密に連絡、情報収集をしている。	○	認定有効期間が長い入居者の方であっても定期的に行う事でいつでも最新の計画書を家族には届けたい。介護支援専門員や計画作成は常に最新の情報を収集していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は概ね共有できている。それとは別に入居者一人に一冊のノートを用意し、細かな変化や他者との関りの様子などを記録するといった、気付きノートのようなものを準備したが活用、反映に至っていない。	○	記録の内容を見直し、ノートの具体的な活用方法を検討しなければならない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設(ショートステイ、デイサービス)はなく、現状はグループホームによる支援のみ行っている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	栄区のレクリエーションボランティアグループを敬老会の際に来てもらった。出入り業者の手品が趣味だという方にクリスマス会に招待し披露してもらった。	○	区役所のボランティアパンフレットや、インターネットでボランティアサークルなどはチェックしていたが行事単位でしか利用していなかった。今後は1/週や隔週等、定期的に作成物やレクリエーションにボランティアグループを利用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない。	○	GHの管理者、ケアマネ同士の交流を深める事を目的とし、今後は当園の行事に他GHの入居者の方を招待するなどをしてみたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っていない。	○	当園の管轄ケアプラザは知っているが、どのような付き合い方があるのかわからない。利用方法などについて知識を深めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関については入居の際に説明しているが、家族の希望で救急時の病院の指定を受けたりしている。また近くの開業医を利用(眼科・整形外科)する事で地域の医療機関との新たな関係を築いたり、移動時の負担などの軽減も図っている。	○	医療機関において更なるネットワークの構築、地域密着を行うべく短時間での移動が可能な皮膚科や耳鼻科においても探している。また往診だけでなく、定期的な健康診断を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も左記の継続に努める他、精神科ドクターによる往診が受けられるようになれば良いと思う。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>職員の見た目や報告事項や相談内容を決めずに、本人に尋ねる事で自分自身の不調部分を相手に伝えられるように援助していきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>左記を継続していく他、対応面等、家族の反応が良かった病院に関しては他家族にも紹介、情報を提供するようにしていく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>家族に話をするそのタイミングについては職員間で相談して決めていきたい。話をする際は一席を設け、家族の気持ちを汲み、慎重に事を進めていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>事業所側の「できること、できないこと」を明確化し、そのような場面になったときには、可能な範囲で家族の希望を取り入れて話し合いを進め、対応していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>先の対応でもやはり環境変化による混乱を避けられない方はいる。そういった際の対応、声掛けや傾聴、意識を他へ向けたり、落ち着きを取り戻す術が必要になる。職員はそれぞれがそれを身につけ、本人から不安を取り除く事ができるようになりたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いに関しては表現や口調などその都度注意をし、介護職に従事するものとして適切な言葉の使用を促している。また、排泄の失敗の際や、更衣の際にも配慮をしている。	○ 左記に関しては今後も継続していく。敬語の使用を義務付けるのではなく、職員(介護従事者)として入居者との関係を理解し、場に適した言葉や表現を用いていくよう心掛け、尊重していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望については、それとなく話題を振ったりして会話の中から引出す(聞き出す)ようにしている。希望が訴えに変わったときにどこまでを叶えるべきか困ることもあるが、話し合いを行い結果を出している。また散歩コースや入浴の際の着替えなども自己決定を促がしている。	○ 個人的な希望は今後も出てくるだろうが、出てきたものに関して可能な限り対応していきたい。又、居室担当を中心に本人に対する理解を深め、気持ちを察する事で訴えや申し出の前に対応できたらと思う。うまく言葉にできなかったり伝えられない方に関しても引出す技術を職員それぞれが身につけていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で趣味に勤しむ時間も大切にし、レクリエーションも強制的な参加は促さない方針である。体力や年齢に合わせ、午睡や急速も促している。合間に歩行訓練などを盛り込んでいる。食事のスピードも個々であり、せかさず。散歩もADLで班分けをしている。共同の時間も個々の時間も大切にしている。	○ レクリエーション参加への拒否が見られた場合等、いつもそうだからで終わらせずに、その都度原因の究明を行っていききたい。誘い方なのか、内容なのか、他者との関係なのか等。職員のペースに合わせてしまう場面も少なからずあり、改善していかねばならない。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的に福祉美容師による訪問美容を受けてもつらっているが、希望があれば行きつけの美容院にも行ってもらっている。季節に応じて衣替えをしているので、服装に関しては自由に着こなしてもらっている。	○ 訪問でもある程度の注文に応じてくれるので今後も継続していきたい。行きつけに関しても家族の協力のもとに続けていく。女性はお化粧の機会を設けられたらと思う。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けを一緒にしたり、時に委託のメニューを変更し、鍋や焼きそばやお好み焼きのように鉄板を囲んだりしている。また弁当を作り、近所の公園で食べる等、気分転換も図っている。また食事中は静かな音楽を流し雰囲気作りも行い、煮→焼き等好みに対応した調理も行っている。	○ 左記対応を継続していくことと、準備、片付けを同じ入居者に偏らず、新しい面を引出す為にもいろんな方に声を掛けていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は飽きが来ないようにお茶だけでも緑茶・ほうじ茶・玄米茶・紅茶・レモンティー・ミルクティーとレパートリーを豊富にし工夫をしている。タバコは喫煙する方はいない。おやつは時に寒天ゼリーなど手作りの物を提供している。気分を変えるべく近所の公園でのおやつも実施している。	○ 左記対応を継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に介助の必要の方は定時誘導とサインを見極め、可能な限りトイレでの排泄を促している。また、ウォシュレットや陰部洗浄を励行し消耗品の残り具合やトイレ内の清潔において、衛生環境の面からも気持ちの良い排泄を行う場を提供できている。	○	排泄内容を記録したり、他スタッフに伝える、又、本人に確認する際にはプライバシーを考慮し、言葉や聞き方に配慮したい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	面会や外出の場合は曜日をずらしている。拒否の強い場合も同対応だが、日にちがあき過ぎないように、先送りを都合よく考えずに声掛け等の工夫にも努めている。入浴日は固定しているが、順番はその都度変えている。	○	皮膚疾患や衛生の面を考え夏季期間は合間にシャワー浴を追加するなどに対応していきたい。入浴は十分時間を設けていたつもりだが、あわただしかったり職員の都合はやはり多少なりとも入ってしまっている。楽しいと思えるような入浴時間を提供していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間に影響が出ない程度に適度な午睡を励行している。昼食後からおやつぐらいまでの概ね90分前後位で。入浴の際は時間調整をしている。また布団干しを行う事で安眠を促している。	○	午睡だけではなく和室のソファでの楽な姿勢をする事で午前の疲れを癒すといったような対応もしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	可能動作を見極め、把握する事で、その範囲内での手伝いを依頼し継続することで役割を感じていただき、また、季節の花や、野菜の栽培を行い、その成長をも守り、収穫、食べることで楽しみや喜びを感じていただいている。	○	左記対応を継続していく事と、雨天時で外へ出れない際の過ごし方については大きな課題が残っている。レクリエーションのレパトリーや充実度の向上を図っていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関するトラブルは他者も巻き込んで不快感が発生してしまう為、現在、個人の所持は行っていない。買い物企画では職員の管理のもと個人で所持してもらい支払いの授受を行ってもらっている。	○	他のGHでは金銭に関してどのように対応しているかを情報収集していきたい。よき方法や情報が収集できたら個人金銭管理について検討してみたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は午前・午後に毎日(入浴時は除き)行い外気に触れる時間を設けている。真夏・真冬でも服装の調整等により可能な限り散歩に行く事を心掛けている。	○	冬季・夏季でも日課の散歩を行う事で、下肢筋力の低下や運動不足・体重増加を防いでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	小グループにて買い物企画を実施し女性は肌着や下着、化粧品を購入を楽しんでいる他、季節のイベントで桜、紅葉見学、遠足、回転寿司やアイス工房の外出企画を実施してきた。お墓参りや職員が個別に対応できかねるところは家族に連絡をし、可能な限り対応してもらっている。	○	近場の外出を回数重ね、実績を積み、職員それぞれが外出企画に慣れたら、入居者の希望もふまえて、今後は少しずつ距離を伸ばして外出していきたい。できる限り希望に添った企画を実施してレパトリーを増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話を自由に使用してもらい、友人や家族とゆっくり話ができるよう支援している。手紙は職員が代理で投函したり散歩の際に本人が投函している。	○	今後は年賀状だけでなく暑中見舞いや普通のお手紙も出せるように企画していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会や訪問をしてもらうように何か特別な働きかけはしていないが、訪問の際には居室でゆっくりと過ごしてもらい、次につながるように気持ちのいい挨拶や返事をしている。	○	今後も継続していく事で定期的な面会や訪問につながるようにしたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法的な内容を熟知しているとは言えないが基本的な拘束については理解している。居室の施錠や拘束衣、帯などの使用はしていない	○	何気ない行為や対応が拘束に該当してしまうことがあり、気付かずに行っている事があるかもしれない。基準に関して職員それぞれが理解できるように対策を検討したい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての戸を開放している。入居者によっては夜間、自室にかけ方もいる。	○	所在確認の重要性を理解し、職員それぞれの目で入居者の所在を確認、声の掛け合いで外へ出たり事故の防止を図りたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全ての戸を開放している。その中で職員は所在の確認を行い、互いに伝えあっている。夜間は定時の巡回にて様子を確認している。	○	左記の対応を今後も継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入浴や、掃除に関する薬品の類は一箇所に収納し、必要に応じて取り出し使用するようになっている。又、共同スペースなどの備品に関しては危険だからといって取り除き殺風景にするのではなくむしろ華やかさを出すべく季節の花や展示物を飾る等励行し、職員は其中で注意をしている。	○	左記を継続していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	小さなことでもヒヤリハットを励行し、危険予測力を養っている。誰にどの危険、事故が予測されるかをそれぞれが理解する事で、ヒヤリハットや事故報告は無駄なきものとしている。	○	危険予測に対する職員の意識に個人差があるように感じる。ただ危険だからではなく、どのような行為がどのような危険につながるのかを職員それぞれが理解していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練はできていない。急変や事故時は訪問看護により速やかな指示を受けられるようになっている。	○	簡単な応急術は各自習得しておきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	制度の変更や入居者満床、職員の増加により、管理者は防火管理者講習を受講した。	○	避難訓練の実施を急ぐとともに、地域との交流を日頃より行う事で災害時の協力を得られるようにしたい。又、地域消防団等に参加する事で町内の非難システムを理解したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	どんな場面でもリスクが予測されるのであれば同時に対応策も検討できると考えている。転倒や他者とのトラブル等いろいろあるが、入居時や面会の際に近況報告と共に付け加えた説明をしている。結果他害や、それが原因で退居につながる場合にスムーズに行えるようにその件に関する項目についてはより明確に別紙を作成した。	○	利用者間のトラブル予測や転倒等のリスクの予測は介護者にとってとても重要な事だと思う。起きてからの対応も重要だが、起こさないようにする危険予測力を職員それぞれが養っていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日の申し送りのスタートである夜勤(明け)職員は細かくゆっくりと報告し、日勤者はその報告に基づき様子観察し、その内容を日勤帯で伝え合い共有している。	○	共有内容を記録に残す際にはその日にいない職員にうまく伝わるように表現の工夫やしっかりとした文章を残す。職員の観察力にも差がある為、
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に同封される薬表は必ず個人記録に挟み、いつでも閲覧できるようし、訪問看護や家族に説明する際にすぐを開けるようにしている。臨時薬や新処方される薬は皆に伝え認識し。セットされた薬の間違えにも職員は気付くようになり、お互いに注意をし合っている。	○	効果は概ね理解していると思われる。特に臨時薬や新処方の薬品については名称・効果に関しても薬表をメモし伝え合っている様子が見られるが副作用までは把握できてはいない。臨時薬や新処方の薬品については服用後の様子変化を必ず記録するようにする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないように、また薬に頼らないように自然排便を促がすように努めている。その為毎日の散歩の励行や、牛乳の摂取を促がしている。そのため、ほとんど便秘はなく定期的、ほぼパターンどおりの排便ができています。	○	職員それぞれが入居者の排便パターンを把握するように努めた結果が出ている。今後も同様の対応を継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は歯磨きを励行し、全員ができています。	○	義歯や残りの歯の具合は常に尋ね、違和感が生じている場合には訪問歯科に相談し、義歯の調整や相談助言をもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては委託の為、献立とレシピが一緒になっている書面で栄養バランスが確認できる。水分量も園独自の様式にて1日トータル量が一目で分かるようになっている。水分に関しては十分促がしているが摂取量が減少したり、不十分だったりしている方もいる。	○	左記に関しては今後も継続をしていく。水分量に差があかないように声掛けにて促し、提供する水分にも種類を用意する事で、飽きなく水分摂取を苦痛にならないように取り組んでいる。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	項目79を行うことにより食品関係の感染症は起こらなかった。布団干しや来園者の手指の消毒も励行、徹底によって皮膚関係の感染や疾患も起こらなかった。職員も作業の際には手袋を使用したり、手に触れる部分は夜勤者が徹底して消毒を行い、継続している。	○	感染症や食中毒において流行の季節にはマニュアルを用いた上で徹底し落ち着いた頃には簡易的なものに移行して常に衛生を保ちたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	横浜市からのお知らせを各ユニットに配布し、独自での予防策を行っている。調理器具は毎晩の熱湯消毒を、調理や配膳の際には使い捨て用の薄手のビニール手袋を使用している。	○	左記を継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鍵はせず開放している。呼び鈴もあるが、家族や近隣の方は直接ドアを開け声を出して来園を伝えるようになっている。昔ながらのお隣に行く感覚での出入りができているのも当園の色である。また駐車場を大きく整備している為、行事等での家族の来園にも対応できている。	○	アットホームな感じをこのまま維持していくとともに玄関には季節ごとに花などを置き、華やかさを演習できればと思う。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下においてはただ歩く場所にあらず、各企画や行事の写真を貼り出している。トイレやリビングは常に清潔保持を心掛けている。カーテンや窓は適宜開け、風や光を取り込むようにしている。車の通りがあまりなく騒音や音による害がない。近所に寺があり、心地よい鐘の音を毎日聞く事ができる。入居者同士の会話のきっかけを促している。花は散歩の際に摘んだり、近所の方からいただいたりする事ができる。	○	左記対応を今後も継続していきたい。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはソファがあり、入居者は休憩や話をするなど多目的に利用する事ができている。	○	和室の環境をもう少し整えたい、使用頻度が低く検討の余地が多くある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新調した家具を断ることはしないが、家具や寝具・衣類・食器に至るまでを可能な限り使い慣れた物品を持ち込みしていただくようにしている。また誕生日や友人、家族の写真を張り出したり、カレンダー等で演出を支援している。	○	模様替え等の希望があれば対応していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコン・窓明け・加湿器(居室内は濡れタオル)をもって園内の環境においては配慮している。	○	エアコンは就寝前に居室を暖めるべく点け、夜間巡回時にチェックを行う。散歩や外出時には窓を全開にして換気を行う。加湿器は各居室には置けないので濡れタオルを壁に掛けることで代用している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁の全てには手すりが設置され誰もが安全に居室まで移動できるような造りになっている。使用頻度の高い中央トイレには車椅子の方が一人で入っても回転できるよう、又介助者2名が使用しても十分な構造となっている。浴室も家庭風呂のように仕上げ、安全性を追求している。	○	入居者の重度化に伴い建物の設備もそれに合わせていかなければいけなくなってくると思う。例えば浴室だが、歩行不可や座位困難な方に対しての設備変更や補助用具を検討していかなければならない。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できる事、分かる事を維持するべくユニット内の清掃活動や調理の一部、片付けを手伝っていただく。居室やトイレ、浴室にはプレートを下げています。	○	入居者にとって日課となってもらえるよう継続して行う。職員側も決してさせるという考えはなく、それをしてもらうことで帰宅願望等から意識を遠ざける意図を含めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭には柿とキウイの木が植えてあり、前庭にも桜や桃、花を植えている。野菜の栽培も行い収穫、食べるまでを楽しんでいる。パラソルテーブルセットを設置したことで外でお茶を楽しむことが簡単に行えるようになり、気分転換ができるようになった。	○	花株は季節に応じて入居者と植え替えを行っている。キウイの木は実りの頃を迎えると入居者と収穫し、おやつや食事の際に提供している。今後も継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・食事は委託ではあるが、ワンパターンにならぬように時々、メニューを変更したり、弁当を作り外へ出かけている。
- ・行事においても工夫を凝らしている。バーベキューなどは他施設にはなく、立地と環境、地域の助けがあってこそでき、当園の地域密着を象徴している。